

IIxil プレミエス門扉

取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号



ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。



補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>



警告

- 門扉は人や車の出入りする場所に設置するものです。使用用途・目的を踏まえた上で必ず安全な場所に設置してください。特に開閉時の扉が公道（道路面）に飛び出さないようにしてください。



注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 指定寸法は必ず守ってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

<施工上のご注意>



注意

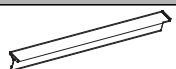
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
- 重量物ですので、2人で作業を行ってください。
- 外開きタイプでは開閉時に扉が公道（道路面）等へ飛び出さない位置に設置してください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

■梱包明細表

【1】扉本体

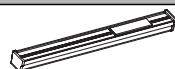
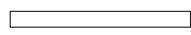
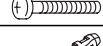
名 称	略 図	員 数	
		掛扉	受扉
扉本体		1	1
上ヒンジ		1	1
下ヒンジ		1	1
ヒンジ裏板		2	2
ヒンジキャップ		2	2
ヒンジカバー		2	2
落とし棒受け		2	2
吊元枠カバー		1	1
【1-1】 M4×10トラスネジ		8	8
【1-2】 φ4×16サドルリルネジ		10	10
取付説明書 (A457)	—	1	—

【2】戸当り

名 称	略 図	員 数
戸当り		1
合掌枠カバー		1
【2-1】 φ4×16サドルリルネジ		10(※1)

※1 H14は2個余ります。

【3】片開き受け部材

名 称	略 図	員 数	
		H14	H16,H18
片開き受け部材		1	1
クッション材		1	2
【3-1】 M5ターンナット		4	4
【3-2】 M5×30ナベ小ネジ		4	4
【3-3】 コンクリートプラグU8		4	4
【3-4】 φ5×30ナベタッピンネジ1種		4	4
【3-5】 M5パネ座金		4	4
【3-6】 M5平座金		4	4

※上ヒンジ、下ヒンジにはドライベアリングが組付いています。

1. 基本寸法図と各部の名称 ※図は、H16内開き仕様を示します。()内寸法はH14、[]内寸法はH18を示します。

1-1 柱仕様 基本寸法図

(1) 片開き

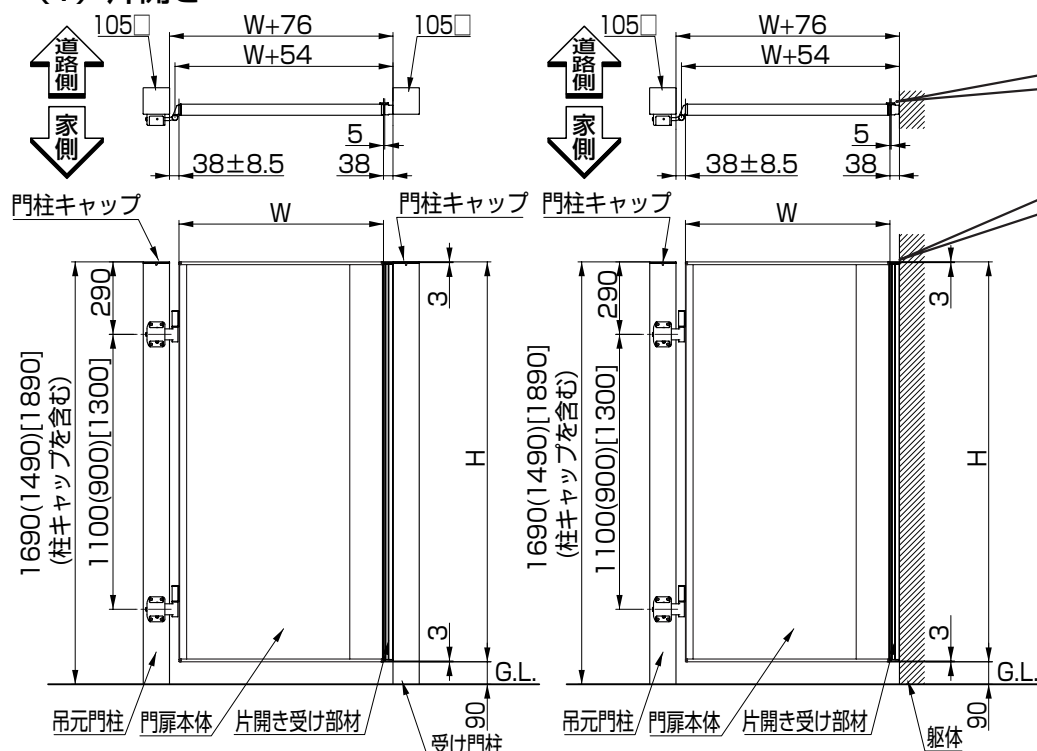


図1-1 受け門柱仕様

図1-2 躯体付け仕様

表1-1

呼 称	W	H
05-14	500	1400
05-16	500	1600
08-14	800	1400
08-16	800	1600
09-14	900	1400
09-16	900	1600
09-18	900	1800
10-16	1000	1600
10-18	1000	1800

(2) 両開き

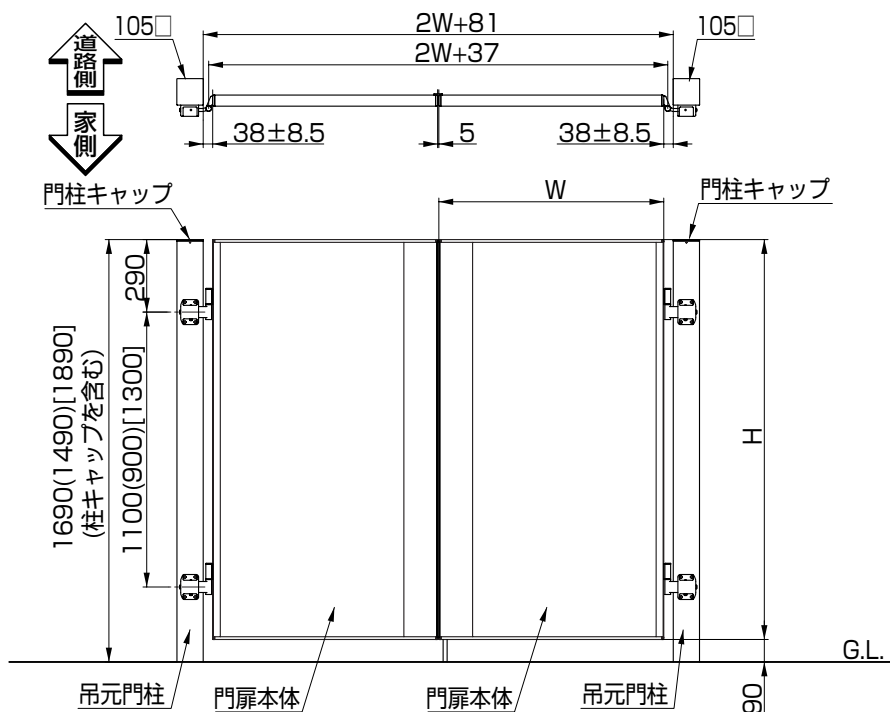


表1-2

呼 称	W	H
05-14	500	1400
05-16	500	1600
08-14	800	1400
08-16	800	1600
09-14	900	1400
09-16	900	1600
09-18	900	1800
10-16	1000	1600
10-18	1000	1800

1-2 調整式埋込金具仕様 基本寸法図

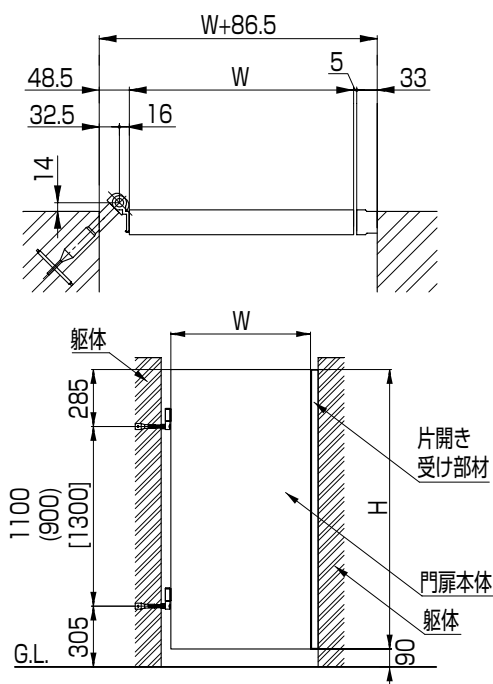


図1-3 片開き

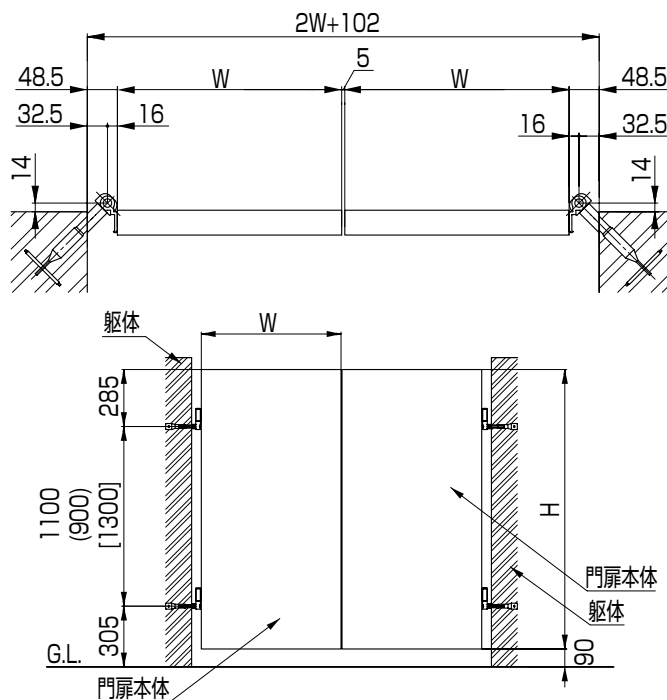


図1-4 両開き

ポイント

- W寸法・H寸法は、柱仕様と同じになりますので「1-1 柱仕様 基本寸法図」の表を参照してください。
- 施工方法は、「調整式埋込金具」に同梱されている取付説明書 (A288) を参照してください。

1. つづき

1-3 半調整式埋込金具仕様 基本寸法図

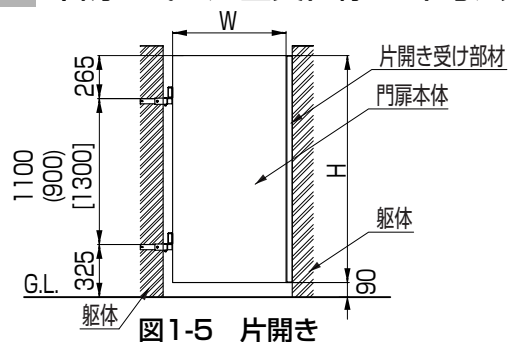


図1-5 片開き

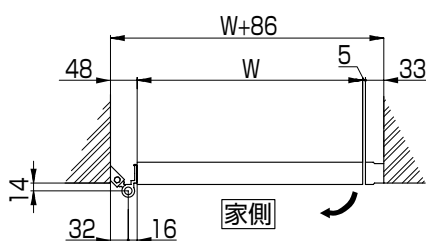


図1-6 片・内開き

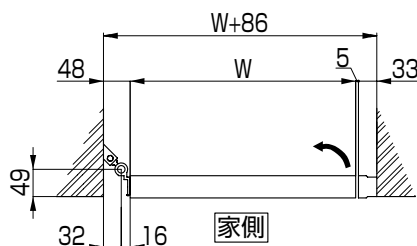


図1-7 片・外開き(開口角度約89°)

ポイント

- W寸法・H寸法は、柱仕様と同じになりますので「1-1柱仕様 基本寸法図」の表を参照してください。
- 施工方法は、「半調整式埋込金具」に同梱されている取付説明書(A286)を参照してください。

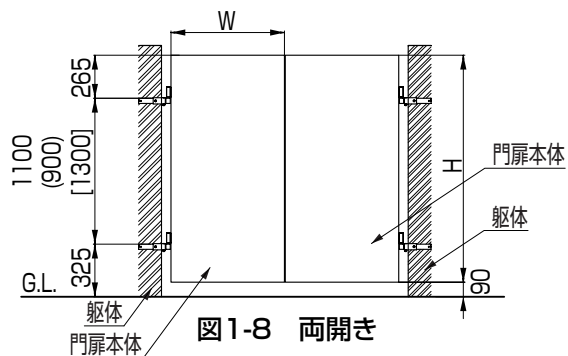


図1-8 両開き

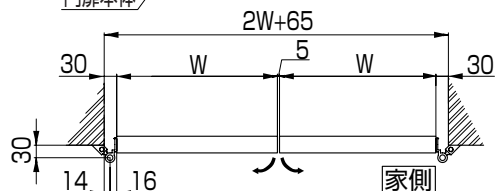


図1-9 両・内開き

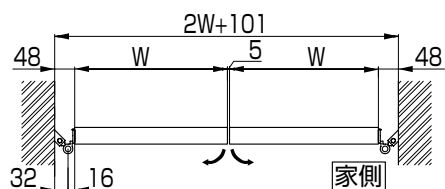


図1-10 両・内開き(開口角度約88°)

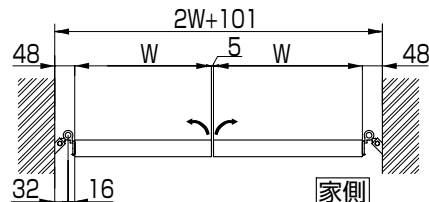


図1-11 両・外開き(開口角度約89°)

1-4 部品配置

(1) 片開き

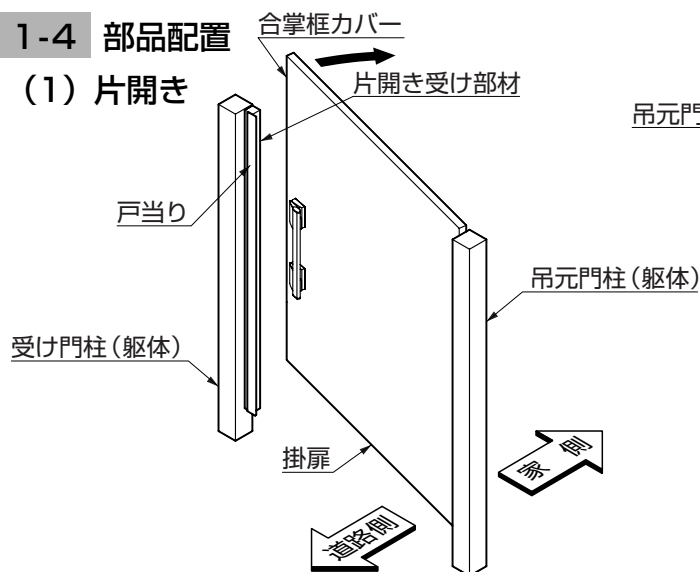


図1-12 右勝手・内開き

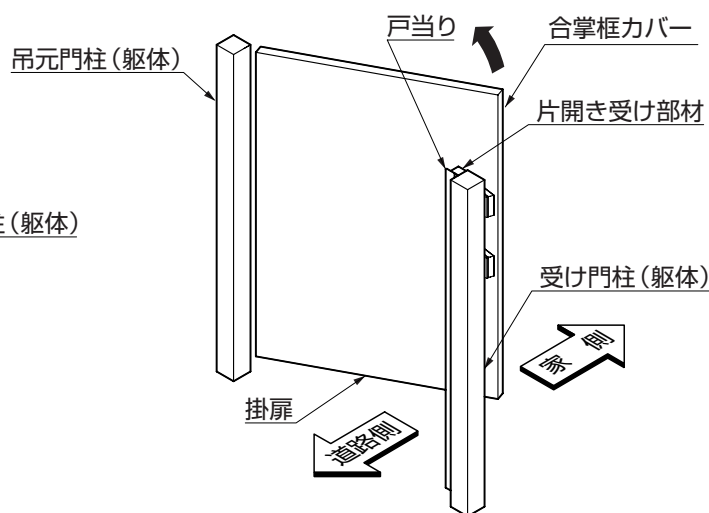


図1-13 左勝手・内開き

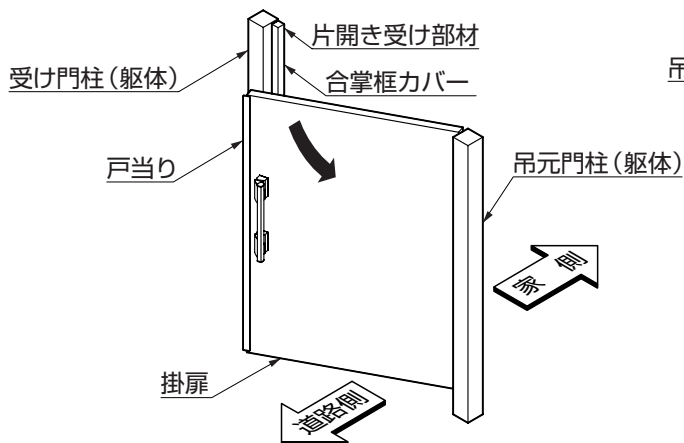


図1-14 右勝手・外開き

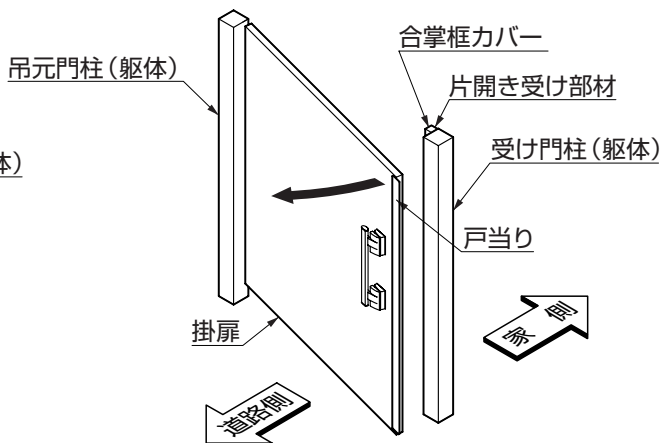


図1-15 左勝手・外開き

ポイント

●片開き受け部材は、壁などの躯体に直接固定することもできます。

(2) 両開き

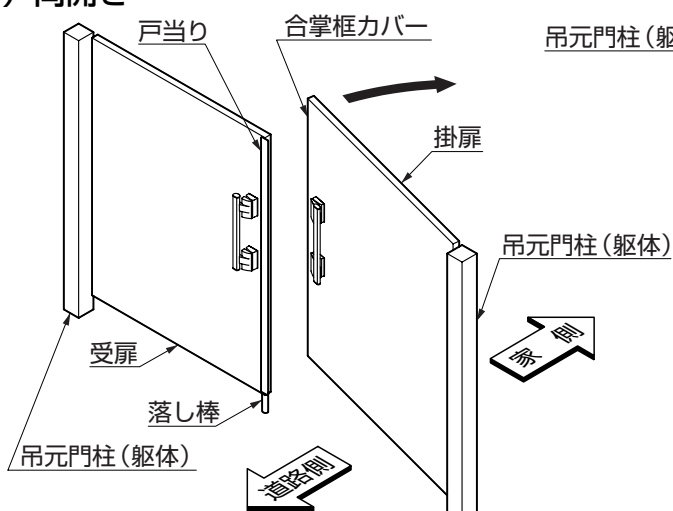


図1-16 右勝手・内開き

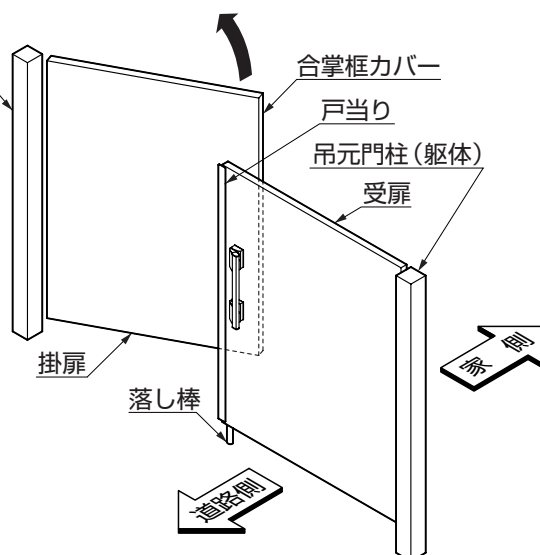


図1-17 左勝手・内開き

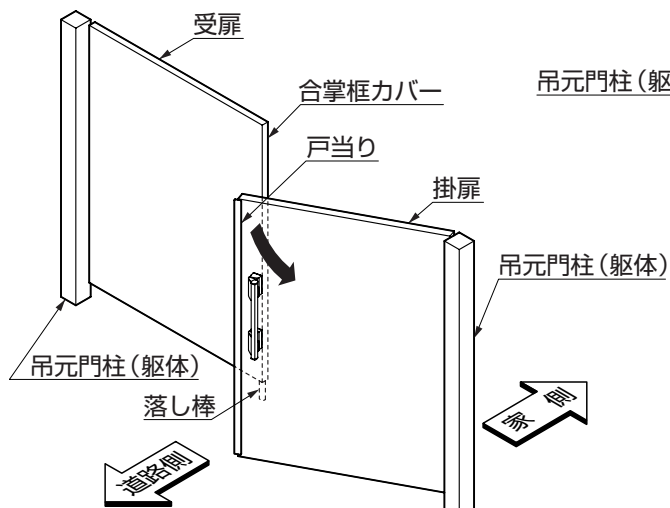


図1-18 右勝手・外開き

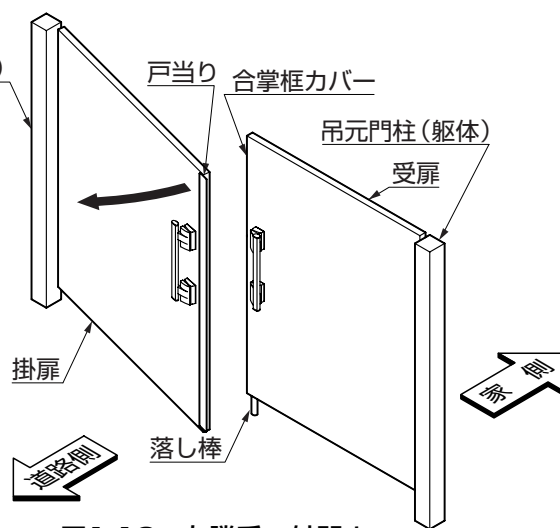


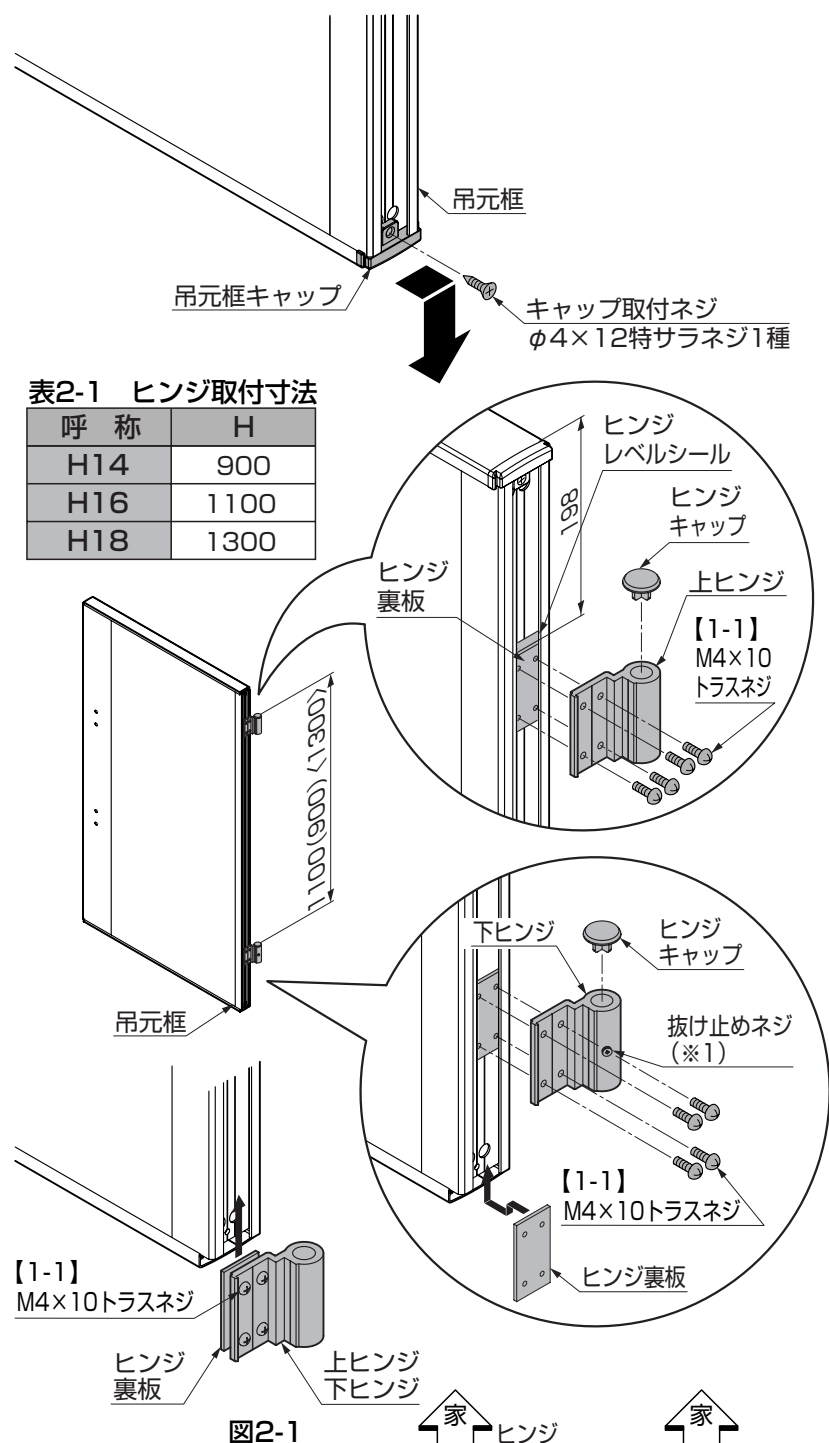
図1-19 左勝手・外開き

2. ヒンジの取付け ※図は、H16の場合の寸法です。()内寸法はH14、< >内寸法はH18の場合を示します。

- ①キャップ取付ネジを取外し、手前に吊元框キャップを引き、下へ取外してください。

表2-1 ヒンジ取付寸法

呼 称	H
H14	900
H16	1100
H18	1300



- ②ヒンジ裏板を吊元框下端からスライドして、各ヒンジを図に示す位置に【1-1】で固定してください。(表2-1参照)

- ③ヒンジキャップを取付けてください。

ポイント

- ヒンジには上ヒンジと下ヒンジの区別があります。
- 抜け止めネジ(※1)がついているヒンジが下ヒンジです。

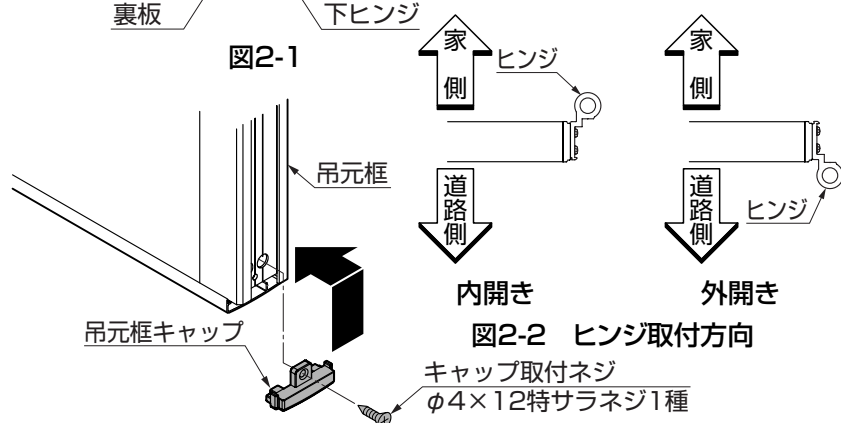
補足

- あらかじめヒンジに、ヒンジ裏板を仮組みした状態で吊元框にスライドさせ、取付けると簡単です。(図2-1参照)
- ヒンジの向きは内開きと外開きで異なります。(図2-2参照)

- ④ヒンジの取付けが終了したら吊元框キャップを取外した手順と逆の手順で取付けます。

ポイント

- 吊元框キャップの取付けには、電動ドライバーを使用しないでください。



3. 落とし棒の操作方法

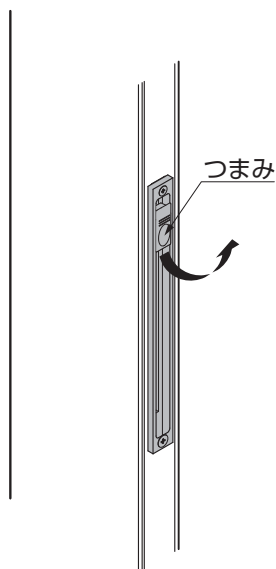
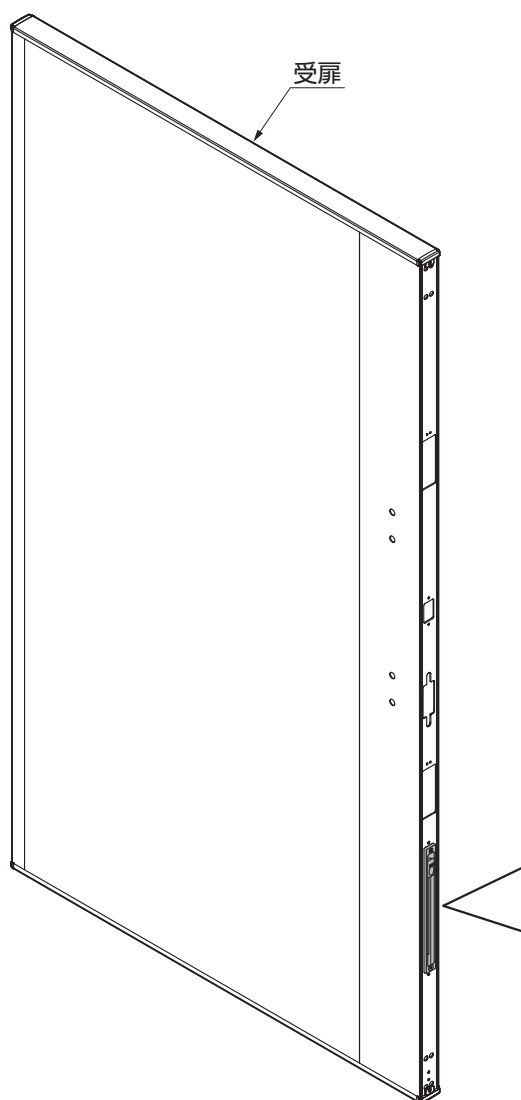


図3-1

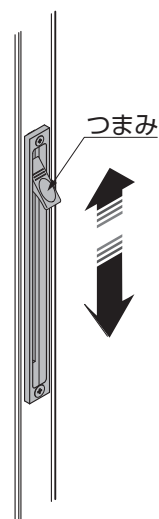


図3-2

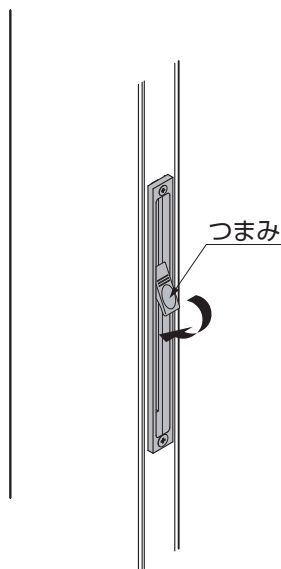


図3-3

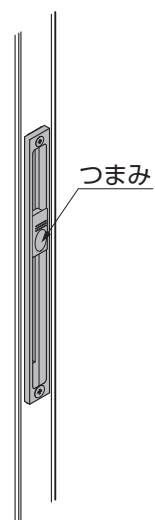


図3-4

- ①つまみを引き上げ、ロックを解除してください。(図3-1参照)
- ②①で起こしたつまみをそのまま上下させて落とし棒を操作します。(図3-2参照)
- ③落とし棒の位置が決定したら、つまみを元にもどしてロックしてください。(図3-3参照)

ポイント

- 落とし棒操作時以外は、ロック状態にしてください。(図3-4参照)

4-2 躯体に取付ける場合

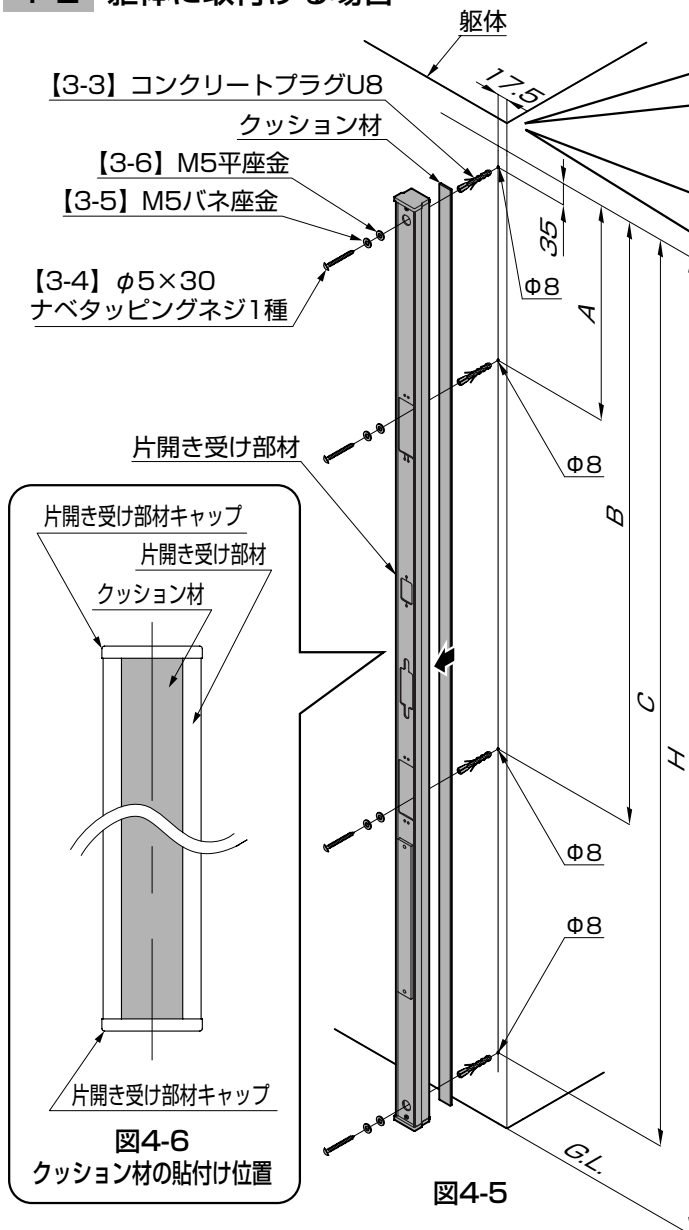


図4-6
クッション材の貼付け位置

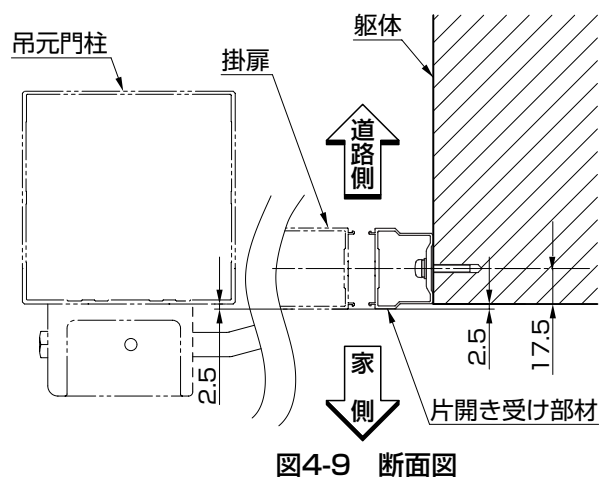
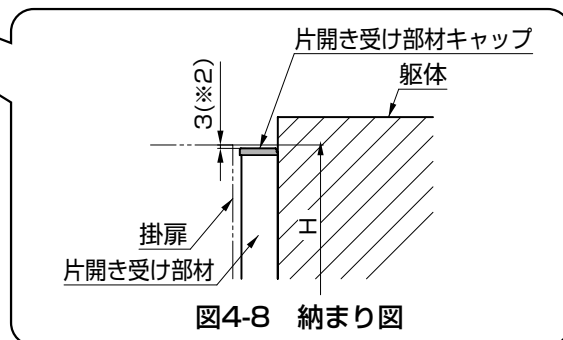
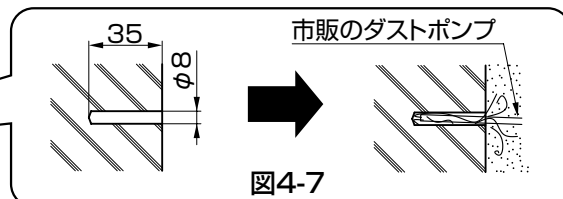


表4-2

呼 称	A	B	C	H
H14	205	835	1365	1490
H16	365	1035	1565	1690
H18	565	1235	1765	1890

ポイント

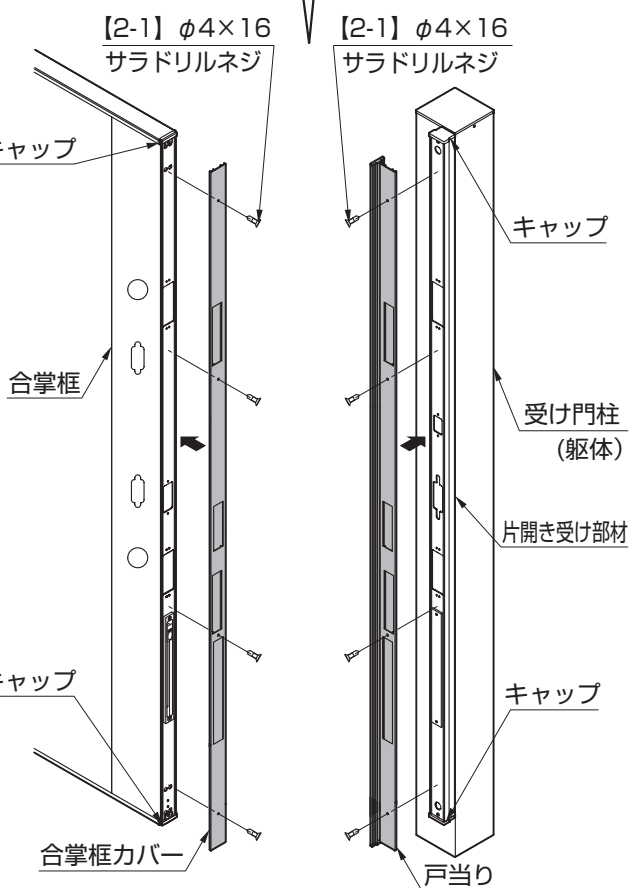
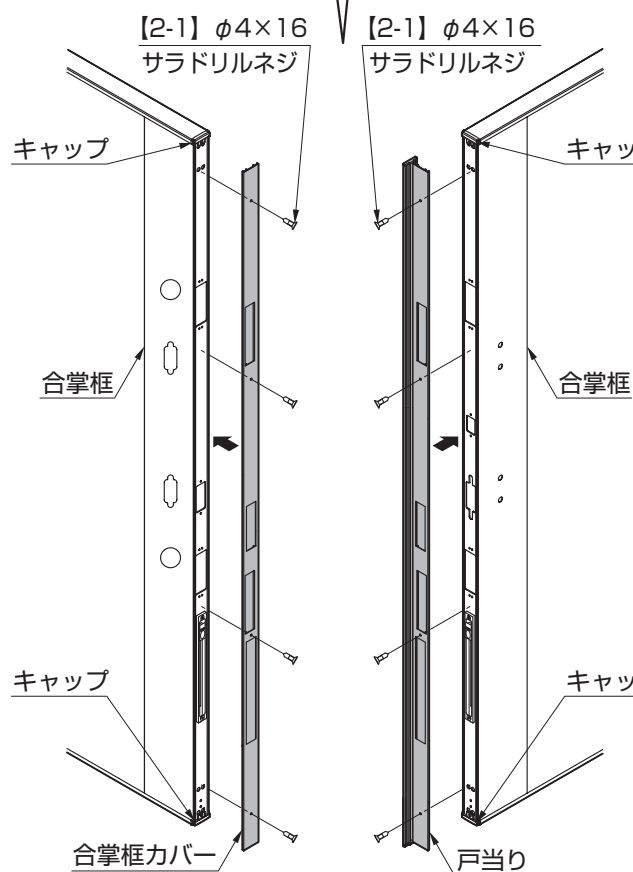
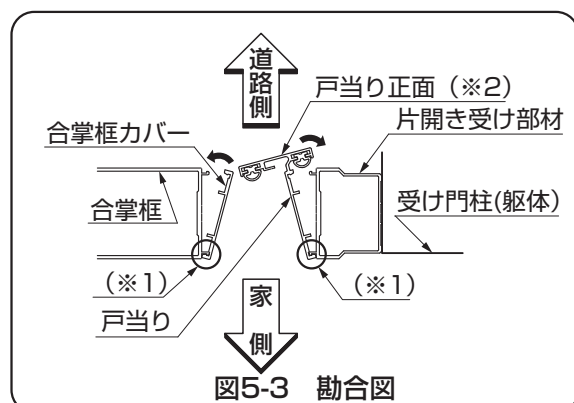
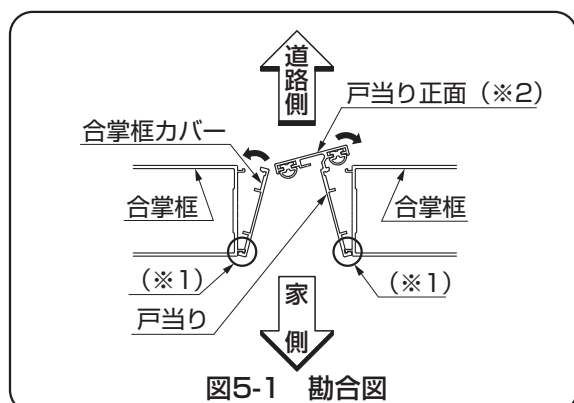
- 取付ける壁などの躯体の強度を確かめてください。
- 壁などの躯体の表面を塗りなどで仕上げる場合は、仕上げをする前に片開き受け部材の取付けを行ってください。

- ①図を参照して、クッション材をH14は1本、H16及びH18は2本で片開き受け部材の長さに合わせて切断して、中心に貼り付けてください。(図4-5、図4-6参照)
- ②図と表を参照して、壁などの躯体にφ8・深さ35mmの孔をあけて【3-3】を挿入後、片開き受け部材を【3-2】で組付けてください。(図4-5、図4-7、図4-9、表4-2参照)

ポイント

- 壁などの躯体に孔をあける際、振動ドリルを使用しないでください。
- 図4-5は、G.L.から門扉下端までが標準の90mmの場合です。
- G.L.から門扉下端までが90mmの場合は、H寸法から片開き受け部材キャップの天面の寸法は3mm(※2)です。(図4-8参照)
- 市販のダストポンプを使用して孔の中の切粉を取り除いてください。(図4-7参照)

5. 戸当り、合掌框カバーの取付け



①戸当り・合掌框カバーの家側のツメ (※1) を合掌框のツメに引っ掛けるようにはめ【2-1】で取付けてください。
(図5-1、図5-2、図5-3、図5-4参照)

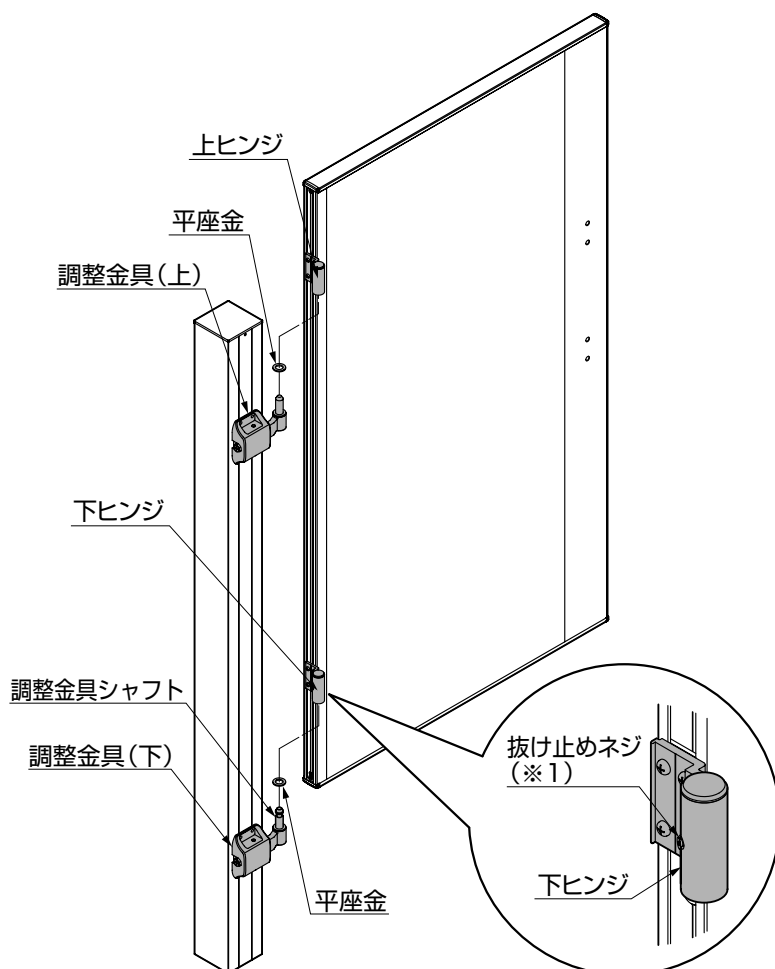
ポイント

- 戸当り正面 (※2) は、必ず道路側に向けて取付けてください。(図5-1、図5-3参照)
- 戸当り・合掌框カバーを取付ける扉は、「1.基本寸法図と各部の名称」を参照してください。

補足

- 合掌框には戸当り・合掌框カバー取付け用の孔加工はありません。

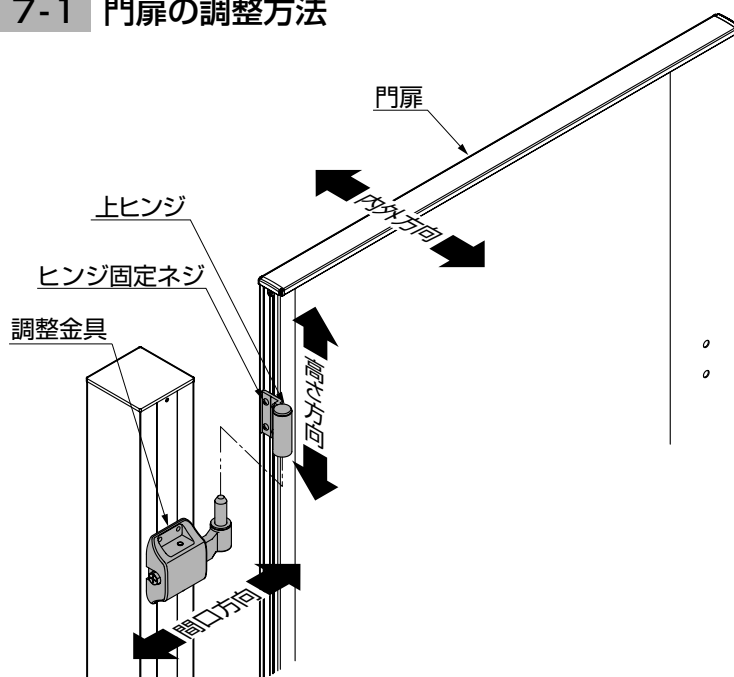
6. 門扉の吊り込み



- ①下ヒンジの「抜け止めネジ(※1)」をゆるめてください。
- ②門柱に同梱の平座金を、調整金具シャフトに取付けてください。
- ③調整金具シャフトに上ヒンジ,下ヒンジを差込んで、門扉を吊込んでください。
- ④下ヒンジの「抜け止めネジ(※1)」を締込んでください。

7. 門扉の調整

7-1 門扉の調整方法



- ①高さ方向の調整方法は、ヒンジ固定ネジをゆるめ、ヒンジをスライドさせて調整してください。

ポイント

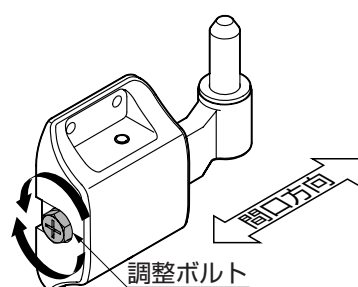
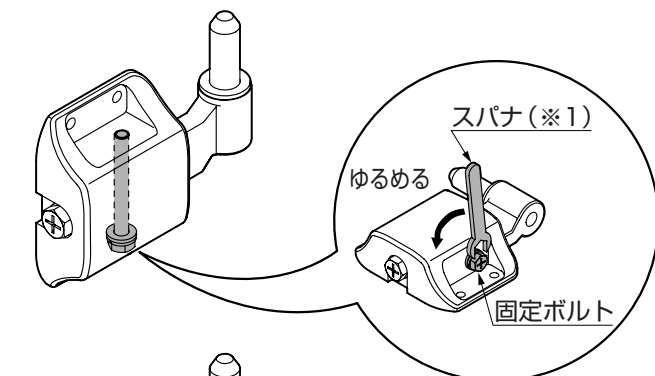
- 門扉とG.L.のすきまは90mmが標準です。

- ②間口方向および内外方向の調整方法は、「7-2調整金具の調整方法」により調整金具で調整してください。

7. つづき

7-2 調整金具の調整方法

※固定ボルトは必ず呼び10のスパナを使用してください。（※1）



①「固定ボルト」を呼び10のスパナでゆるめてください。

ポイント

●「固定ボルト」を締めたまま間口寸法を調整すると「固定ボルト」が破損します。

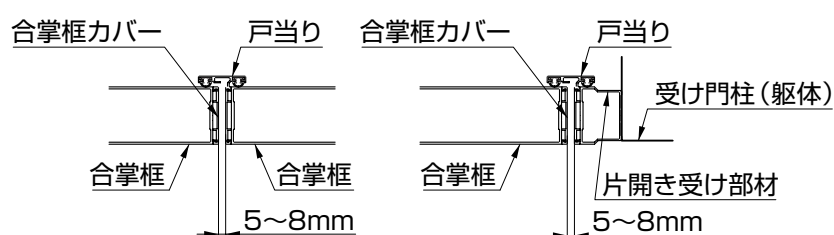


図7-1

図7-2

②「調整ボルト」をまわして、図7-1、図7-2のようにチリ寸法を5～8mmに調整してください。

ポイント

●上下のチリ寸法およびねじれがないように調整してください。

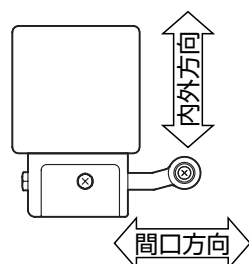
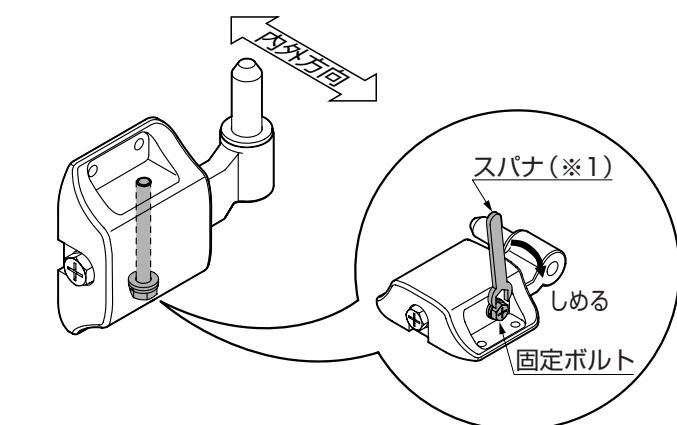


表7-1 調整範囲

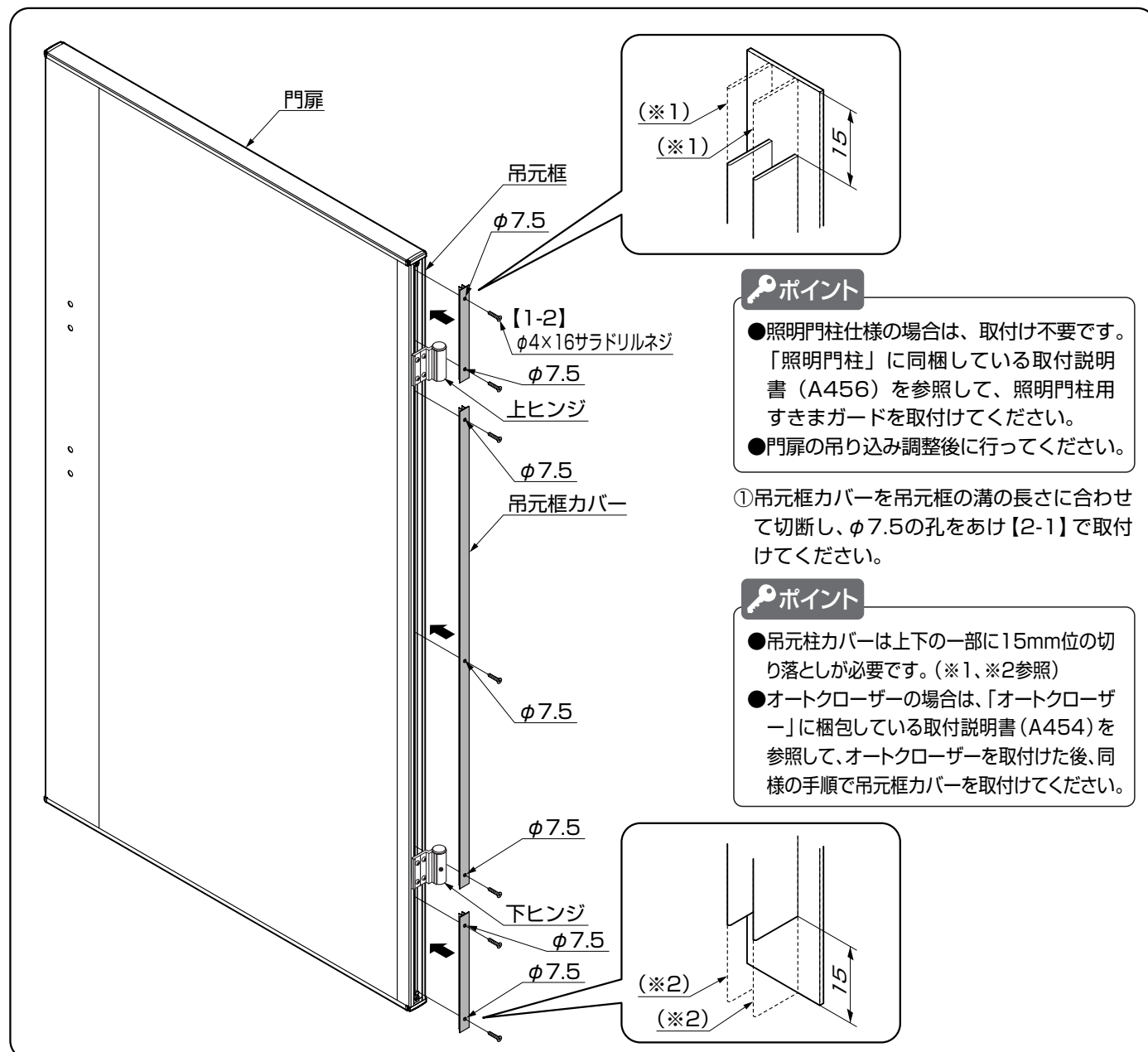
内外方向	±4.5
間口方向	±8.5 (※2)

③内外寸法を決めたあと、「固定ボルト」の固定は呼び10のスパナで締付けてください。

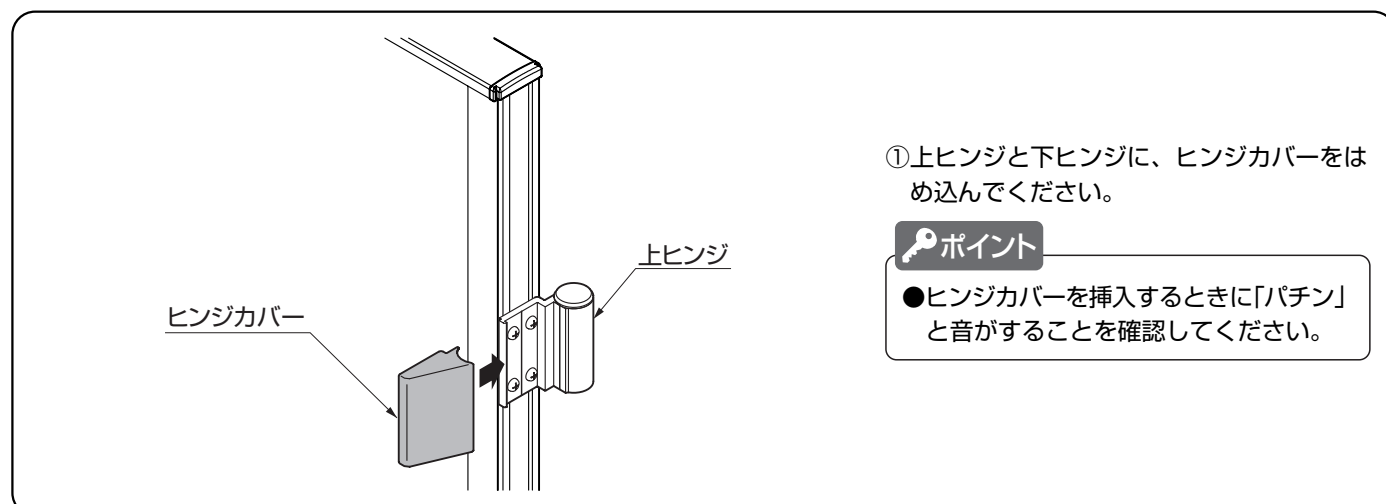
補足

●調整範囲は表7-1を参照してください。
●オプションを使用すると調整範囲が変わります。
オートクローザー使用時：+8.5-5
オートクローザー+吊元金具カバー使用時：+8.5-2 (※2)

8. 吊元框カバーの取付け

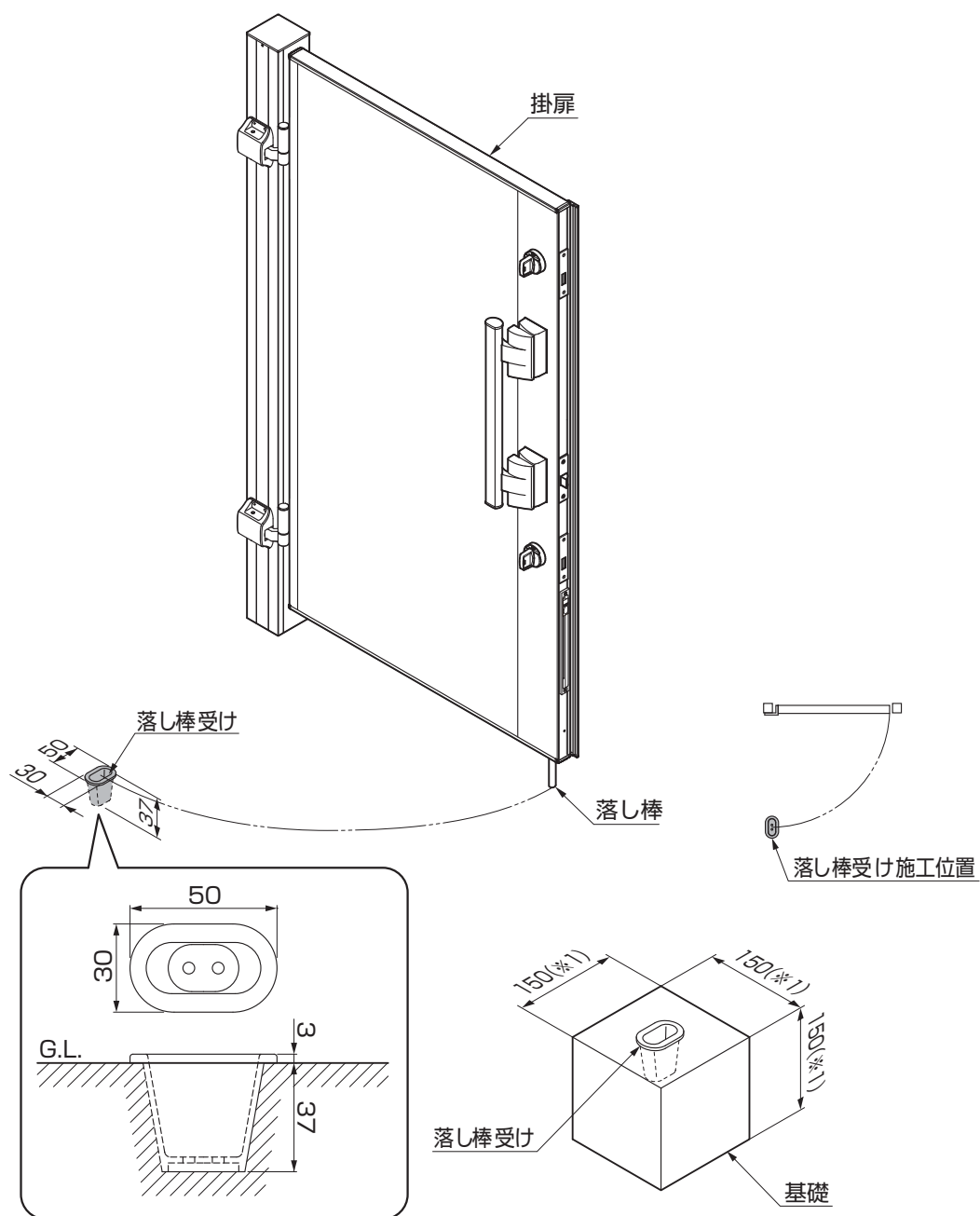


9. ヒンジカバーの取付け



10. 落とし棒受けの施工

10-1 片開き



(ロ) 掛扉を開いた状態で落とし棒を収める位置に、落とし棒受けを確実に固定してください。

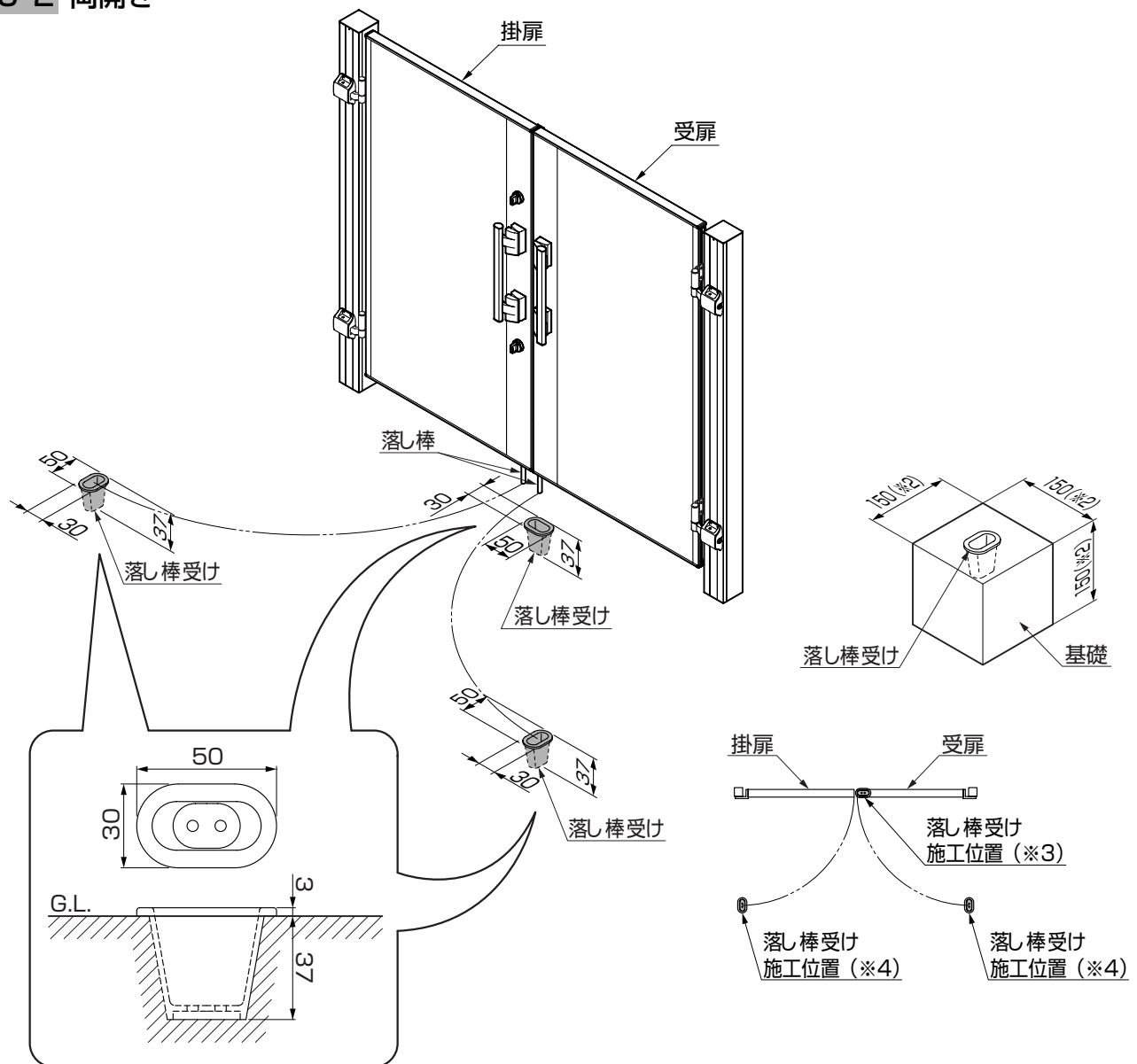
ポイント

- 落とし棒受けの埋込位置は、現場合わせで施工してください。
- 基礎寸法は指定寸法以上にしてください。(※1)
- 養生は、落とし棒を上げた状態で行ってください。風などによる扉の振動で、落とし棒受けの位置がずれるおそれがあります。
- 養生後、落とし棒と落とし棒受けの位置が合わない場合は、「7-2調整金具の調整方法」を参照して、調整金具で位置を合わせてください。

補足

- 錠の取付説明書を参考に、錠を取付けてください。

10-2 両開き



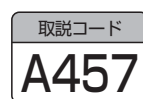
- ①受扉を閉めた状態で落し棒を収める位置に、落し棒受けを確実に固定してください。（※3）
- ②掛扉および受扉を開いた状態で落し棒を収める位置に、落し棒受けを施工してください。（※4）

ポイント

- 落し棒受けの埋込位置は、現場合わせで施工してください。
- 基礎寸法は指定寸法以上にしてください。（※2）
- 養生は、落し棒を上げた状態で行ってください。風などによる扉の振動で、落し棒受けの位置がずれるおそれがあります。
- 養生後、落し棒と落し棒受けの位置が合わない場合は、「7-2調整金具の調整方法」を参照して、調整金具で位置を合わせてください。

補足

- 錠の取付説明書を参考に、錠を取付けてください。



JZZ615294F
200803A_1001
201510G_1049